

2019年11月23日  
「学校と社会をつなぐ調査」第4回調査分析報告会  
高校事例報告②

# コンピテンシー自己評価 アンケート分析結果報告 ~Chufu-compass~

中央大学附属中学校・高等学校  
齋藤 祐

---

# SSH課題研究

コンピテンシー・ベース  
の観点別評価体制の開発

---

**Chufu**

**-compass**

# Chufu-compass

- I 学習する力
- II 考える力
- III 新しいことに挑む力

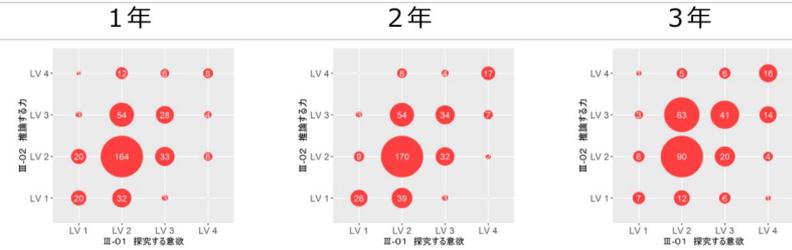


- やり遂げる力 IV
- 理解する力 V-1
- 伝える力 V-2
- 協力する力 VI



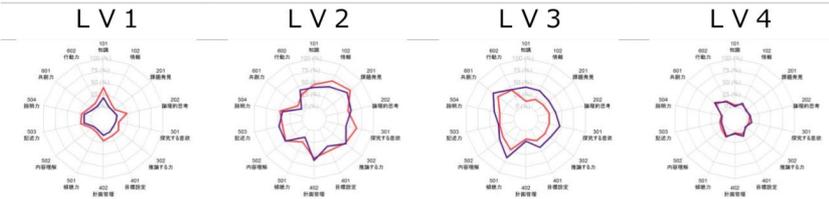
“Chufu-compass”は、アンケートへの回答を通じて、  
資質・能力（コンピテンシー）を、振り返りながら自己評価できる仕組みです

## ◆クロス集計



同一カテゴリの回答数をバレーンの大きさとレベル別に示すことによって、属性ごとの回答傾向や偏りが視覚化されます（例：Ⅲ-01 探究する意欲×Ⅲ-02 推論する力）

## ◆レーダーチャート



複数のアンケート結果を、カテゴリ×レベル別にプロットすることで、コンピテンシー特性の比較・対照関係や経年変化が明示化されます（例：A校とB校の同一学年比較）

## ◆定性分析

回答中の気づきをテキストとして記録し、回答者のメタ認知を促すことができます。  
「自分が持っているもの、足りないものを第三者に指摘されたような感覚でした。こういった自己を見つめることは定期的に行った方が良いと思いました。」（本校卒業生）

## ◆コンピテンシー項目一覧

項目	LV 1【問題行動】	LV 2【指示待ち行動】	LV 3【自主的行動】	LV 4【自律的行動】
I-01【知識】	①特定の分野においてさえ、自分の知識は不十分だと思う	②特定の分野においては十分な知識をもっていると思う	③色々な分野の知識をもっており、新たなものも習得しようとしている	④幅広い分野で知識を習得しており、それらを深めようとしている
I-02【情報】	①何が必要な情報なのかさえわからないことがある	②何が必要な情報は、何となくわかっているつもりである	③情報の必要性に気づき、それを集めることができる	④情報を入手し、くわしく調べた上で発信選択し、自分のものしようとしている
II-01【課題発見】	①何も足りないものはないと感じている	②与えられた課題は正しく理解できているつもりである	③与えられた課題だけでなく、新たな問題点を見つけようとしている	④与えられた課題だけでなく、自ら新しい課題を設定することができる
II-02【論理的思考】	①何か論理的なものがよくわからない	②単独の項目ならば、記号と矢印などを使って筋道立ててまとめることができる	③複数の項目を記号と矢印などを使って筋道立ててまとめることができる	④ほとんどの場合に記号と矢印などを使って図式化・構造化することができる
III-01【探究する意欲】	①新たな知見を得ようという姿勢など持っていない	②自分の興味のある分野については、知見を広げようとしている	③自分の興味のある分野以外でも、知見を広げようとしている	④自分の興味のある分野以外でも、継続的に知見を広げようとしている
III-02【推論する力】	①できごとの背後にある要因や規則性を見つけ出すとしたことなどない	②できごとの背後にある要因や規則性を見つけ出すとしたことがある	③できごとの要因や規則性をおしほり、仮説の確かさを高める努力をしたことがある	④できごとの要因や規則性をおしほり、仮説の確かさを高める努力を継続的にしている
IV-01【目標設定】	①そもそも目標を設定することができないと思う	②目標を設定することはできていると思う	③適切な目標を設定することができると思う	④適切で明確な目標を設定できていると思う
IV-02【計画管理】	①スケジュール管理などしたことがないし、する意味も感じていない	②スケジュール管理はできていると思う	③計画に基づいたスケジュール管理を行っており、定期的なチェックもできていると思う	④計画に基づいたスケジュール管理を行っており、定期的なチェックも欠かさず、その結果を実践へと反映できていると思う
V(1)-01【傾聴力】	①他人の意見を聞こうとせず、自分の意見にこだわってしまうことがある	②相手の意見に耳を傾けようとはしている	③相手の意見を一通り理解し、その要旨を把握することができると思う	④相手の意見を一通り理解し、その要旨を手短かにまとめることができると思う
V(1)-02【内容理解】	①記述された内容が理解できなくてもあまり気にしない	②記述された内容を理解しようとはしている	③記述された内容を理解し、その要旨を把握することができる	④記述された内容を理解し、その要旨を手短かにまとめることができる
V(2)-01【記述力】	①自分が書いた文書に誤りがある場合がよくある	②自分なりに興味のある文章を書くことができると思う	③正しい文をつないで、他人が一通り理解できるように書くことができると思う	④正しい文をつなぐだけでなく、他人の理解をうながすよう工夫して書くことができると思う
V(2)-02【説明力】	①相手にわかりやすく説明することができないと思うことがある	②相手にわかりやすく説明しようとしていると思う	③相手にわかりやすく説明がある程度できていると思う	④相手にわかりやすく説明をばっちりできていると思う
VI-01【共創力】	①そもそもチームで作業することが苦手だ	②チームで作業はできるが、自ら動くことはできない	③チームでの作業において、チームとしての共通の目標を理解しようとしている	④チームでの作業において、共通の目標を理解し、それを達成するために当事者意識をもって行動している
VI-02【行動力】	①そもそも自分には行動力がないと思う	②行動はしているが、他者に従って、あるいは真似をしていることが多いと思う	③自分の意志・判断で行動していると思う	④自分の意志・判断で責任をもって行動していると思う



# Chufu-compass



# 項目例Ⅱ-01:課題発見

①何も足りないものはないと感じている

**【問題行動】**

②与えられた課題は正しく理解できているつもりである**【指示待ち行動】**

③与えられた課題だけでなく、新たな問題点を見つけようとしている**【自主的行動】**

④与えられた課題だけでなく、自ら新しい課題を設定することができる

**【自律的行動】**

---

# 調査概要～第1回～

【実施時期】2018年7月～10月

【調査対象】有効回答者数合計：2,101名

中央大学附属(849名)1・2年生全員+3年生生理系クラス  
本校卒業生(理工学部)38名

【協力校】◆都立A高等学校(SSH経験校598名)

◆都立B高等学校(現SSH校616名)

【調査方法】Chufu-compassによるアンケート方式

---

# 1回目 の 調査結果

【研究論文】

# 学びに向かう力をどうハカるか？

—コンピテンシー自己評価アンケート分析—

How to measure the Motivation for Learning?

— Competency Analysis by Questionnaire —

齋藤祐<sup>†1</sup>, 禰覇陽子<sup>†1</sup>  
SAITO Yu<sup>†1</sup>, NEHA Yoko<sup>†1</sup>

**概要:** 2018年度, 中央大学附属高等学校がSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定となったことを受け, 課題研究のひとつとしてコンピテンシー・ベースの観点別評価体制の開発を行うこととなった. 本稿は, 上記課題研究に基づいて行われたアンケート調査の経緯と, 分析の全容についてまとめたものである. アンケート結果を分析したところ, 高校生が抱える資質・能力面での課題項目を抽出することができた.

**キーワード:** コンピテンシー, トランジション, 動機づけ, メタ認知, 振り返り

**Keywords:** Competency, Transition, Motivation, Meta-cognition, Reflection

# トランジション 調査との関連

---

# 10年トランジション調査結果

## 要点 1

高校2年生の半数は、さほど資質・能力を変化させることなく大学生になる

◆資質・能力は、高校2年時から大学1年時にかけて変改しない者が47～60%見られた。成長した者はわずか23～24%に過ぎなかった。

## 要点 2

高校2年生の家庭学習や対人関係・コミュニケーション、キャリア意識が、大学1年生時の資質・能力を含め、さまざまな側面における学習に影響を及ぼす

◆大学1年時の学習態度は、高校2年時の回答と相関。

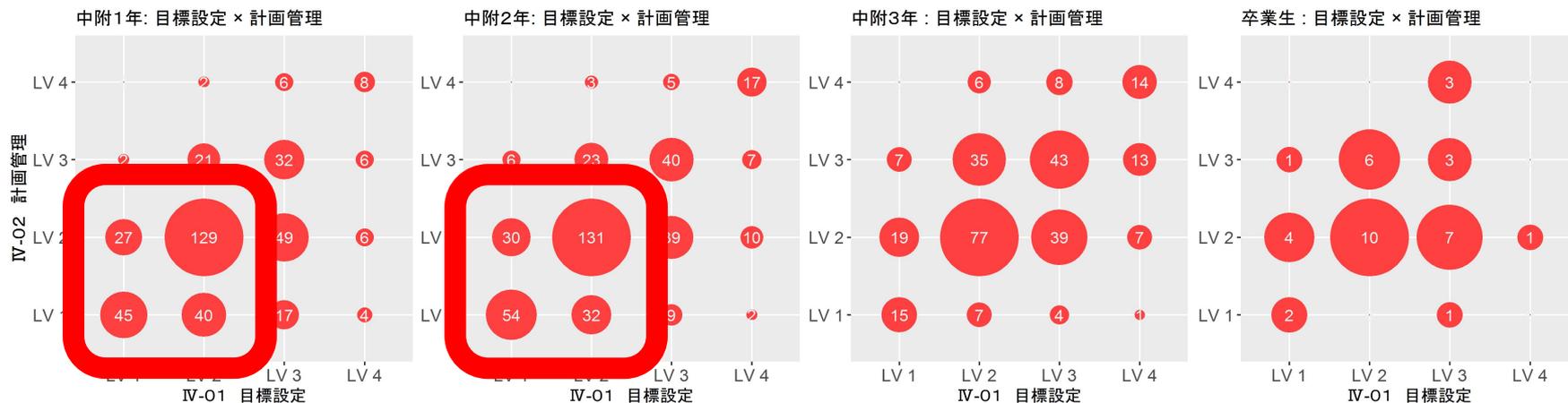
---

# 高1

# 高2

# 高3

# 卒業生



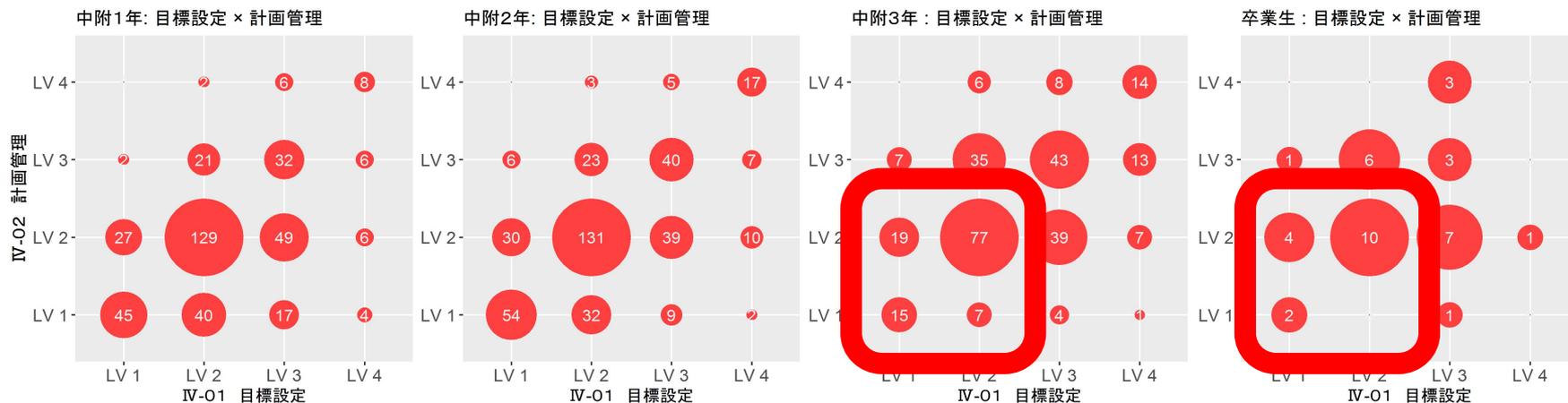
高1・高2はLv.2以下に大きく偏っている

# 高1

# 高2

# 高3

# 卒業生



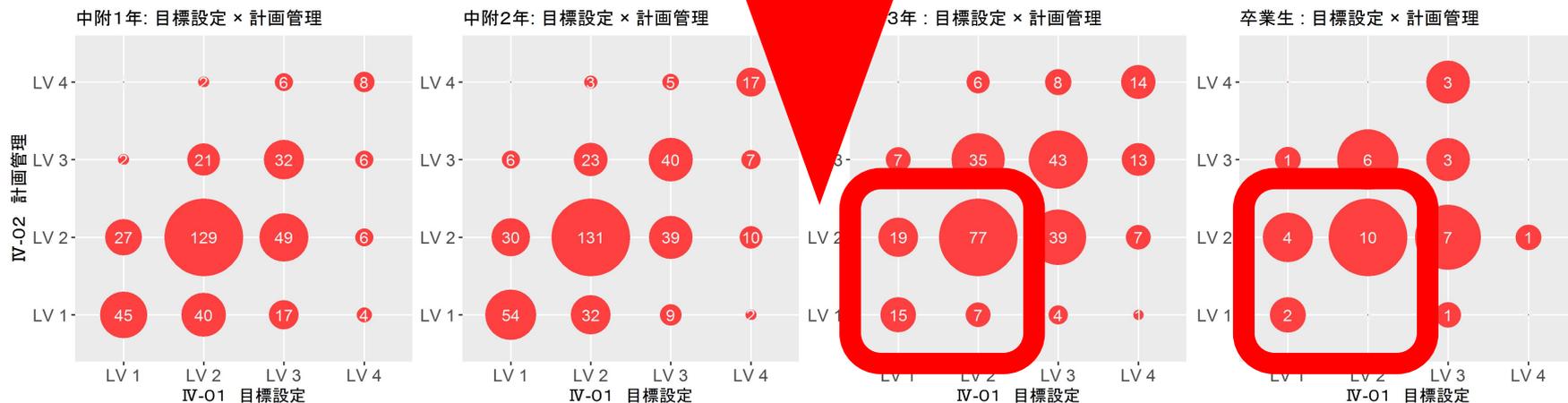
# トランジション(移行)が スムーズに進んでいない

# 高1

# 高2

# 高3

# 卒業生



**【仮説】高2までの過ごし方が  
生徒の資質・能力伸長の肝。**

# 2回目 の 調査結果

---

# 調査概要～第2回～

【実施時期】2019年1月～3月

【調査対象】有効回答者数合計：2238名

◆中央大学附属高等学校(1058名)全員

【協力校】◆都立A高等学校(SSH経験校566名)

◆都立B高等学校(現SSH校614名)

【調査方法】Chufu-compassによるアンケート方式

---

# 1回目と2回目 学年別比較

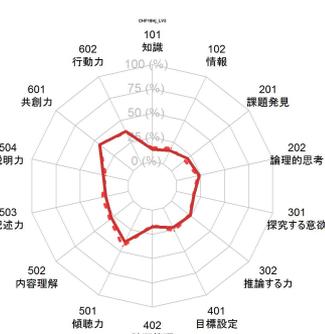
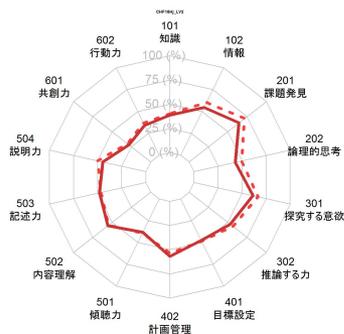
LV1

LV2

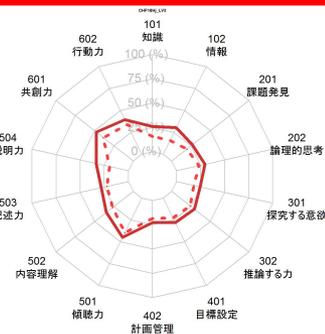
LV3

LV4

新高2



新高3



# 新高2・高3経過を比較

## →教科教育の現実

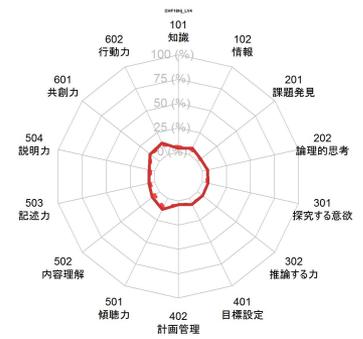
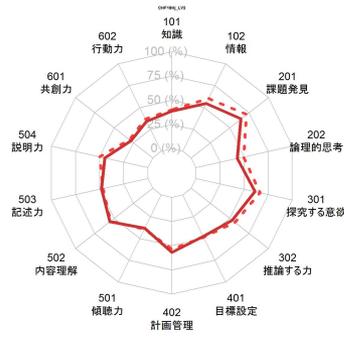
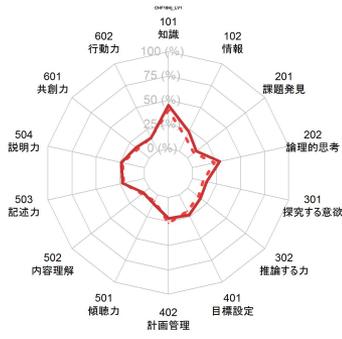
LV1

LV2

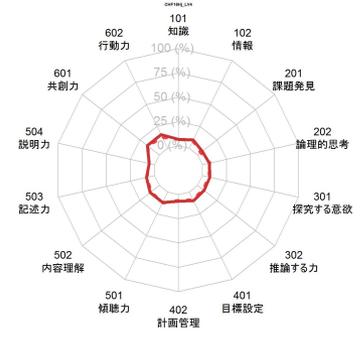
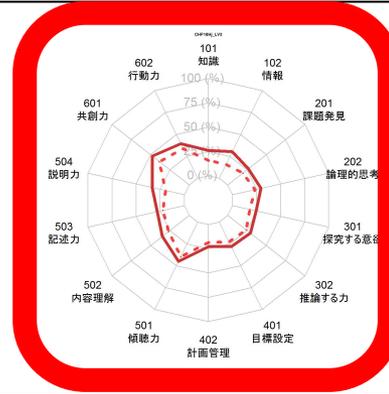
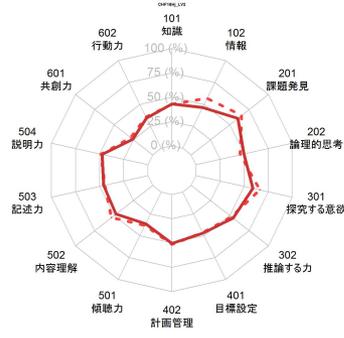
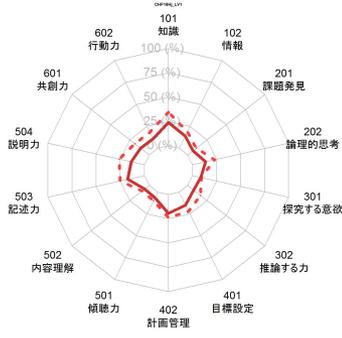
LV3

LV4

新高2



新高3



新高2・高3経過を比較  
 →現高3のみLv.3増加

# 教養総合 I

## 講座別比較

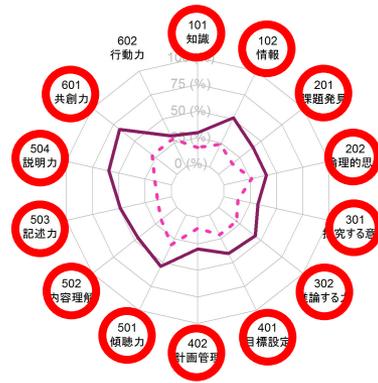
LV1

LV2

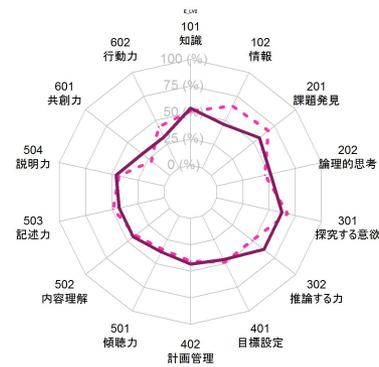
LV3

LV4

C



E



# 教養総合 I 講座別比較

→ 伸びる項目に特徴あり

—

**学びに向かう力は  
探究学習で伸びる**

そこで

**探究学習を  
支援する  
考具の開発**

**探究マップ**

**Light**

# 探究マップLight

“探究マップLight”は、付せんを貼り替えながら  
問いを深めるための、考具です



## ①問い

疑問は持つもの、  
問いは立てるもの。  
まずは、探究のための  
問いを立ててみましょう



## ⑥やってみた結果 どうだったか？

大切なのはココ。  
失敗しても大丈夫。  
新たな問いが手に入るよ

## ⑤どうすればよいか？

問題の原因を突き止め、  
解決策を仮説として  
立てます



## ②どうなっているか？

「問い」の背景を探索。  
現状を把握するために  
調査します。  
複数の観点から考えて  
みましょう

## ③なぜそうなのか？

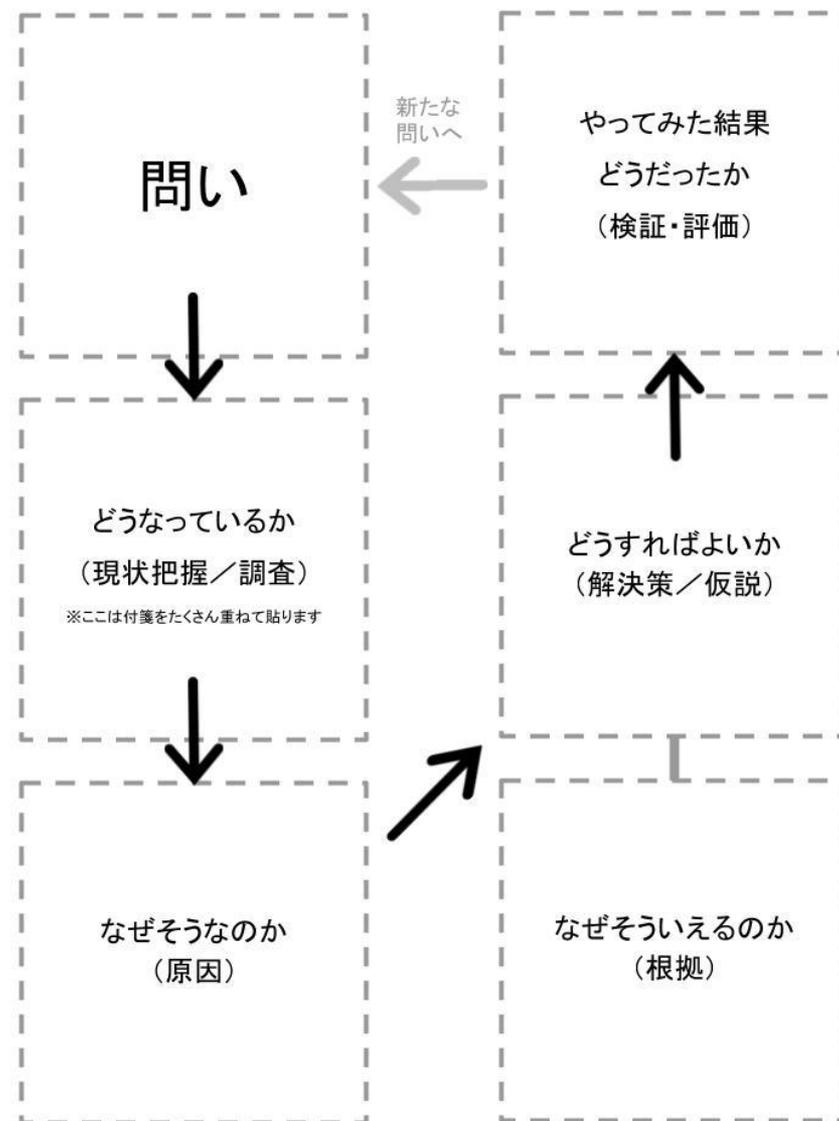
「問い」の原因を追究。  
真の原因と呼べそうな  
「真犯人」をさがせ！  
問題の本質を  
あぶり出します



## ④なぜそういえるのか？

仮説が見えたらいったん停止。  
本当にその仮説でいいの？  
どうしてその方法がすぐれて  
いるといえるの？  
さあ、根拠を考えよう！

年 組 番 氏 名



The formulation of the problem is often more essential than its solution...Albert Einstein.

2019.9.5発行 Ver2.0 © 2019 competency project team.



**探究の問いを  
付箋で深掘り**

—

まとめ

学びに向かう力は  
測れる。育める。